2018 - 03 - 26

2020 東京オリンピック
テロに対峙するスマートロジスティクスの提唱

花房 陵
ロジスティクス・トレンド株式会社　代表取締役
☞ ロジスティクス・トレンド株式会社ホームページへ

1　オリンピックはエポックメーキング

開催が近づく 2020 年東京オリンピックはスポーツの祭典としてだけではなく、世界の中で最も経済の成熟と人口高齢化が進んだ先進国日本に関心を集めることだろう。

半世紀前の 1964 年東京オリンピックは、敗戦の復興を遂げて経済成長真っ盛りの時代でもあり、同時に名神・東名高速道路開通、東海道新幹線開業、羽田モノレール、首都高速道路などの交通手段、いわば物流インフラの整備が進んだ時期でもあった。昭和から平成以降、景気は低迷を続けており、物流の伸びは成長からは一気に縮小している。代わりに個口化、多頻度、再配達というきめ細やかさに業界も腐心しているところだ。

2 つのオリンピックが象徴する時代の変遷は、登山と下山の違い、そこでの経営課題の現れ方にも大きな変化が見て取れる。物流活動は産業や私達の生活に欠かせず、けれども常に当たり前を実現するためには多くの配慮と綿密な計画を必要としている。経済成長期には量の拡大を支えるために道路インフラと同時に多額な設備投資が求められ、成熟期では質と安全が重要視されることになるのだ。

2　日本の安全神話崩壊が続いている

21 世紀のスタートほど〈食の不安〉が重視されたことはなかった。それは原材料素材のウソから始まり、製造や流通過程での悪意ある混入や不作為の罪による事故の連鎖があったからだ。東日本大震災では自然脅威への備えよりも、エネルギー安全神話の信用失墜が続いている。

安全安心こそ、課題は明らかでも今の日本では対策が十分であるとは言えない。 悪意ある犯行を防ぐには、見せしめにつながる罰則法規定をどれほど高めても、ヨコシマな決意に基づく動機を抑えることはできない。世界を震撼させる暴走トラックや爆発の実行犯は命をも惜しまずに決行を新たにしている。

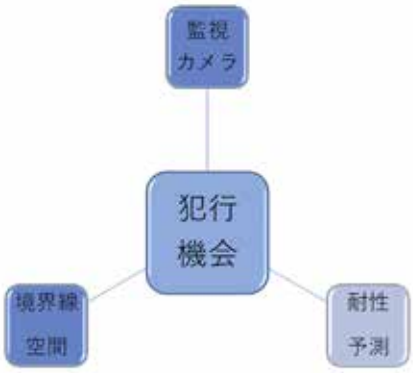
世界中からアスリートとサポーターが集まるスポーツの祭典、2020 東京オリンピックは 50 年昔の舞台とは規模も様相も全く異なっている。まだ発展途上と思われていた我が国を世界にアピールするために、オリンピックの意義は様々な背景を持っていた。先進国の仲間入りをするために、新幹線も首都高速道路網も整備され、道路の舗装と下水道の整備が徹底された。国民はその変化に驚き、世界に向かって笑顔の歌と踊り、微笑がえしに終止していた。 いま、1000 日を切った開催日までの最大の不安は、安全な開催である。成熟した日本のもてなしは、世界からのアスリートと観光客への安全安心な 2 週間の約束である。

3　物流の安全は AEO 規定で守られるか

2001 9.11 同時多発テロを受けて国際物流では安全対策、テロを防止するための方策として国際物流、貿易貨物についての検閲と運営内部での犯行を防止するための AEO 制度を定めている。これは悪意ある犯罪予備軍の貿易貨物への接触を排除するために、監視カメラとバリア境界壁を設けた運営を行うことのできる事業者を認定する制度である。認定を受けなければ、事業者は各国税関と警察による立ち入り査察を常時受けなければならず、何より速度を求められる物流活動に支障が生じてしまう。安全面における〈国際物流の水際作戦〉は、この制度で守られていると言える。

ただ問題は、貿易港を経た〈後〉のプロセスでの安全保障なのである。トラック輸送、国内物流施設、再びトラック輸配送による納品と消費活動という長いサプライチェーン上での対策が十分かどうかにかかっている。

4　物流事業者が知るべき犯罪機会論



テロ対策や異物混入、アレルギー原因物質の排除を行うには正攻法の訓練が何より重要ではあるが、そのためには〈悪意ある犯行予防策〉を真剣に構想できなくてはならない。

道路があれば暴走トラックを排除できず、監視カメラの死角があれば異物の持ち込みと混入を防止することはできない。 しかし、犯行を決意する犯人には〈今なら見つからない、見つかっても逃げられる〉ある種のタイミング（犯行機会）があることも事実なのだ。かつて 1980 年台のニューヨーク地下鉄は犯罪の温床と呼ばれて庶民が敬遠していた時期があった。車両は落書きと汚破損で近寄りがたく、駅構内もゴミと汚れでまみれていた。それは管理者不在で整備も点検も疎かだったニューヨーク行政の予算不足に原因があった。当時のジュリアーノ市長は犯罪の後処理よりも予防策に腐心して、地下鉄の汚れを一掃した。落書きを 消し、割れた窓を直して常時監視の運営を行うことでスリ、ゆすり、暴力事件は全くなくなった。犯人は地下鉄構内では常に「見られており、逃げることができない」場面が演出されたからである。犯罪を予防する手法として〈ブロークンウィンドウ：割れた小窓理論〉が証明されたのだった。

ヨコシマな動機を持つ犯人を排除するには入退場でのセキュリティ全数チェックが必要になる。しかし、それとて万全とは言えないが、〈犯行を決意する場面〉を排除することは可能だ。それが犯人にとって「今は見られている、逃げることが難しい」と思わせる演出なのだ。 すべての場面局面と工程で〈入りやすく、見えにくい〉空間を排除すれば、犯行を防止することはできる。しかし、〈入りにくく、見えやすい〉空間に転換させるには、すべての工程の見える化と監視カメラによって完全に実現が可能になる。物流工程の見える化、工程内部での監視はサプライチェーン全領域での点検が必要となり、そのための方法論、ガイドラインが欠かせないだろう。

5　安心安全のオリンピック開催を目指したロジの役割

世界では様々な脅威が安心安全を脅かしている。テロ犯罪も手段を選ばぬようになり、暴走トラックや爆

弾の持ち込み、化学ガスや生物兵器も危惧されている。多くの観客や関係者が集まり、優れた選手団や世界のリーダーに安心と安全を保証するためには、どれほどの想定と想像を巡らせても足りることはない。

セキュリティ強化のために隔離や監視設備を重視した〈モノの安全〉を保証するには、AEO 認証で確保された国際物流の〈水際作戦〉を継承してゆくことである。食品であればフードディフェンスを維持するために、冷蔵庫、調理加工場、提供現場、消費の様子を高いセキュリティで見守る必要がある。

危険物の混入や紛れ込みを防止するためにも、常時起動の監視カメラは欠かせないであろう。そしてそれらの観察データをビッグデータとして高速分析を行い、異常値の発見や挙動不審者を洗い出さねばならない。モノと人は常に一体化しているから、犯罪者の防犯警備と物流の安全も一体化しなくてはならない。

IoT の技術はこの場面でも有効であり、モノのステータス情報がインターネットを通じて常時観察の対象となれば、異常値のアラームも即応できる。高度なセキュリティをローコストで実現するために、今、2020 年東京オリンピックを目前に様々な機関と企業が取り組みを開始している。

6　新刊『スマートロジスティクス』で安全安心を提供する

サプライチェーン工程の隔離、全工程の見える化を実現するには、安全性を最重要視する全体最適の視点での再点検、物流再設計が重要となり、安全対策面でのスマートなロジスティクス技術と知見が必要であろう。

最新の物流技術、マネジメント理論、サプライチェーンの実装方法を紹介しているのが、3 月 27 日に発刊される『スマートロジスティクス　～ IoT と進化する SCM 実行系～』である。 論点は、高度に進化している情報技術と製造流通を統合するサプライチェーンの最適化を通じたロジスティクスの効率化究極像を目指すものであるが、全体最適という視点の確保と輸送･保管・加工・情報処理という物流全領域の把握をガイドするものであり、物流の安全安心に欠かせない視座を得ることができる。オリンピック関係者の一読を勧めるものである。

Profile

ロジスティクス・トレンド株式会社
代表取締役
花房　陵　氏
HANABUSA　Ryo

1978年、慶應義塾大学経済学部卒業。33年間にわたり製造流通業のSCM改善指導など、流通・物流の現場実務を重視したコンサルティング、教育研修を行っている。

〈主な著作〉
『現場でできる物流改善』
『物流改善Q&A100』
『物流コストダウンマニュアル』
『物流リスクマネジメント』
『戦略物流の基本とカラクリ』